

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア（思考力・判断力・表現力等）	イ（知識及び技能）
【読む能力】文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えをもつこと	【書く能力】自分の考えを明確にし、考えが伝わるように書くこと

	児童の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
低学年	• しっかりした姿勢を保ち、最後まで集中して話を聞くことに課題が見られる。【その他】 • 自分で文を読み、内容を正しく理解することについて個人差が大きい。【ア】 • 伝えたいことを順序立てて話したり、書いたりすることに苦手意識をもつ児童がいる。【イ】 • ひらがなやカタカナ、漢字を正しく読みだり、書いたりすることについて個人差が大きい。【その他】	• 聞く力を高めるために、話を聞く姿勢（体に向ける・目を見る）や態度の指導を徹底していく。 • 内容を正しく理解するために、明瞭な発音で文章を読み、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をする習慣を身に付けさせる。 • スピーチの活動を取り入れ、接続語を適切に使いながら、順序だてて話すことを意識させる。 • 日記や感想などを書く活動を取り入れ、思ったことや伝えたいことを書くことを意識させる。 • 視写や文章を書く課題を取り入れ、書く習慣を身に付けさせ、書いた文章を読み返すことを意識させる。 • 「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を	通年 単元ごと 通年 通年 通年 通年	

		朝学習（ぐんぐんタイム）時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 •家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小テストなどを通して、漢字の読み書き等の習熟を図る。 •朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やし、語彙力を高める。		
中学年	•文の構成を意識し、何が大切なところか意識しながら教材文を読むことに課題が見られる。ア •文章の表現を感じ取り、イメージすることが難しく、自分の考えや気持ちを文章に表せる児童とそうでない児童がいる。イ •音読、漢字の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。しかし、漢字の読みはできても、書き取りの習熟には個人差が大きい。その他	•文章の読み取り方（文章の構成「はじめ・中・終わり」や登場人物の気持ちの変化や行動の読み取り、接続詞等）を明確に指導する。 •朝読書や図書の時間を通して、本（学習まんがを除く）に親しみ、言葉や豊かな表現に触れる機会を増やす。 •国語の各単元に関連する読み物について触れる機会を増やし、本のおすすめカードを書く等の活動に取り組む。 •家庭学習の習慣化、日々の学習や小テストの振り返りを通し、漢字の読み書きの習熟を図る。 •「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」「ミライシード」を朝学習時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。	単元ごと 通年 単元ごと 通年 通年	
高学年	•目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。ア	•文章を要約するために、それぞれの段落の内容を簡単にまとめる表を作成しながら、構成内容を確認する活動を取り入れる。	単元ごと	

	• 目的に応じて、文章と図表とを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方を考えたりすることに課題がある。ア	• 図表やグラフを読み取るとともに、文章と図表やグラフなどを関連付けて読む活動を取り入れる。	単元ごと	
	• 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが ら、自分の考えが伝わるように書き表し方 を工夫することに課題がある。イ	• 文章全体の構成を見直し、簡単に書くか詳しく 書くか判断をして記述する活動を取り入れ る。	単元ごと	
	• 漢字力、語彙力に個人差がある。その他	• 家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小 テストなどを通して、漢字の読み書きの習熟 を図る。 • 「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版 東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を 朝学習（ぐんぐんタイム）時に活用し、漢字の 読み書き等の習熟を図る。 • 朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会 を増やす。	通年	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

低学年：ロイロノートで考えを共有する。

中学年：ロイロノートで考えを共有する。挿絵をタブレット端末で拡大して見て、より物語のイメージを広げる。

高学年：ロイロノートで自分の考えを表現し、学級全体で共有することにより、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を見付ける。

全学年：ロイロノートでそれぞれの考えを学級全体で共有することで、意見を比較することを習慣化し、考えを広める機会を増やす。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年：単元の始まりに、この単位ではどのような力が身に付いていればよいのかを共有し、学習の見通しをもたせる。

単元の終わりに学習の振り返りを必ず行い、身に付いていればよい力は身に付いているか、何ができるようになったのかの自覚し、次の学習につなげていくようにする。

